

Family

令和7年11月特別号
(全国学力・学習状況調査)
小野市立河合中学校舎

9年生 全国学力・学習状況調査について

校長 吉岡 秀晃

9年生を対象に、全国学力・学習状況調査が4月に行われました。本校の結果とその分析は下記のとおりです。今後とも学校・家庭・地域が連携しながら、子どもたちの社会性を豊かにし、学力を向上させていきたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

◎生活調査の結果

<良好であった項目>

- 朝食を毎日食べていますか。
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- 自分には、よいところがあると思いますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- 友達関係に満足していますか。

<全国平均をやや下まわった項目>

- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。(遊びなどの目的に使う時間は除く)
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)
- あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)

【考察および今後の課題】

本校生徒は規則正しい生活習慣がおおむね定着しており、良好な状況であると言えます。自己肯定感もやや高く、社会や他者に対する優しい気持ちが根付いていることが分かります。また、規範意識も高く、困っている人やいじめなどに対しても適切な対応を取ろうとする意識が見られました。ICT機器の使用状況に関しても、小野市が推進している脳科学に基づく実践理論や校内ルールが定着しており、ICT機器に対して適切な使い方を保っていることが分かりました。

しかし、学校が休みの日(土・日曜日)の家庭学習の時間が全国を下回っており、家庭学習に対する課題が見られました。また、家庭において読書に触れる機会も全国をやや下回っていました。今後は週末の家庭での過ごし方や読書を通じて読解力や語彙力を高める工夫を学級活動及び教科指導を通じて実践していきます。

◎学力調査の結果(全国平均と比較した本校の結果)と各教科の結果と今後の方針

(1)国語

<良好であった項目>

- ・スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する。(資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる)
- ・「しきりと」の意味として適切なものを選択する。(事象や行為を表す語彙について理解している)
- ・手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する。(読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができる)

<改善を要する項目>

- ・変換した漢字として適切なものを選択する。(文脈に即して漢字を正しく使うことができる)
- ・発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く。(資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる)

【考察及び今後の指導】

全国平均と比較するとプラスの項目が多く、おおむね良好な結果となりました。文章の読解や詩、短歌の解釈など、様々な発想を出し合い交流することで力がついてきています。

「自分の考えを書く」問題で全国平均を下回っており、自分の思いや考えをもっており、話すことが得意な一方で文章として正確に表現することに課題があると考えられます。まず考えたことを書く時間をとることや、交流した後にまとめとして文を書く取り組みなどを増やし、書いたものを相互で評価するなど、より良い文章の作成に力を入れていきたいと考えます。また、漢字の定着や語彙の習得など、個人で身に着けていく力については繰り返しの学習が必要です。小テストの実施や家庭学習の習慣づくり等により、知識を積み上げていきます。

クラスメイトと交流しながら学習に取り組むことが好きな生徒が多いため、意欲的に学習に取り組めるよう、学びあいの時間の確保も継続して授業を進めていきます。

(2)数学

<良好であった項目>

- ・一次関数 $y=6x+5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める。
- ・連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。
- ・A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。

<改善を要する項目>

- ・ $3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する。
- ・平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する。

【考察及び今後の指導】

全国平均と比べると、全体的に良好な結果となりました。今年度の9年生は小学校からの積み上げに加え、6年生からの教科担任制や、少人数学級の実施でよりきめ細やかな指導の効果が表れています。そして、最も全国平均より良好だった問題は『連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明をする』という定着しにくい記述で説明する問題でした。しかし、本校では小学校から同じメンバーで、何でも言い合える仲間作りが根幹にあり、授業中にいろいろな問題を説明しあうということが習慣化していることが、結果につながっていると考えられます。また、この問題以外でも記述で説明する問題では、全国平均比で考えると高いものが多く、数学の授業だけでなく他教科でも、日頃からのペア学習や班活動などを大切にする河合中の学びあいの授業形態の効果が出ていると考えられます。

一方、条件を変えをしても成り立つ、もしくはこの条件を変えると成り立たなくなるというような、さらに深い思考を要する問題に課題があります。2学期以降も、問題演習と、思考を深めたり考えを表現したりする時間を両立させた授業を進めていきたいと思います。

(3)理科

<良好であった項目>

- ・地層の性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する。
- ・塩素の元素記号を記述する。
- ・「Web ページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものすべてを選択する。

<改善を要する項目>

- ・「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのか」という疑問を解決するための課題を記述する。
- ・動画を見て呼吸を行う生物をすべて選択する。

【考察及び今後の指導】

全体として、正答率は県・全国平均を上回るおおむね良好な結果でした。基本的な知識は身についていると判断できます。全国平均よりも特に上回っていた項目は、地層のどこから水が染み出るかを観察する問題で、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識を関連付けて解釈することができました。また、元素記号を答える問題では、全国平均を大きく上回る結果でした。今後も学習基盤である基本的知識の定着を図っていきます。

しかし、日常で生じた問題はどのような手順で調べると解決できるのかという、仮説を立てる項目が十分にできていませんでした。今後の指導では、実験方法をすぐに提示するのではなく、どのような実験を計画すれば調べができるかを自ら考え、科学的な思考力につけるような工夫をしていきます。

日頃より班での学び合いを行い、学級全体で課題を解決しようとする良さがあります。今後も引き続き、班での実験活動を中心とした、思考力を養う授業を行います。